



OKAYA

岡谷ロータリークラブ

- 会長／小野 仁
- 副会長／宮坂宥澄・佐藤有司
- 幹事／山岸邦太郎
- 会報・雑誌・広報委員長／林 尚孝

■ 事務所／岡谷市中央町 1-4-12 ホテル岡谷 3F

Tel/0266-22-6939・Fax/0266-23-6939・URL:<http://okayarc.org>・E-mail:[okayarc@amber.plala.or.jp](mailto:okayarc@amber.plala.or.jp)

■ 例会／毎週火曜日 PM12:30 ホテル岡谷

## 第 2547 回例会 2011 年（平成 23 年）11 月 22 日（火）

点 鐘：小野 仁

司 会：高木昭好

斉 唱：我等の生業

ラッキーNo.：No.24 小口雅弘

### 会長挨拶

被災地で仮設住宅の寒さ対策が問題になっています。真夏に突貫工事で造った住宅ですので、急ぐあまり冬のことはあまり考えずに、とにかく早く避難所の人たちに提供したいということでしょう。ところがこれから迎える本格的な寒さは、住んでいる方々にとっては命にかかわる深刻な事態です。

また、東電福島第一原発の電気は全部首都圏へ供給されていました。地元の方は家族も仕事も自宅も財産も失い、苦しい避難生活を余儀なくされているのに、都会に住む多くの方は電気の恩恵を忘れ汚染された物の持込みはお断り、地元で処分場をつくり処理をさせようとしています。昔から東北人は我慢強いといわれてきましたがなぜ皆でまとまって抗議行動をしないのか不思議です。

### 会長報告

- ・本日の理事会にて次年度委員会構成を作成するに当たり定款等の変更が必要となりましたので、会則特別委員会に付託致します。

### 幹事報告

- ・ガバナー事務所よりタイ洪水被害への義援金要請が届き、一人 1000 円クラブから一部プラスし 5 万円を送金する事に理事会にて承認されました。

### 委員会報告

役員および理事指名委員会 本日の正午を持って 2013-14 年度会長への立候補・推薦を切りましたが、申し出がありませんでしたので委員会にて選出させていただきます。よろしくお願ひします。なお、本日例会終了後に委員会を開催します。



## 卓 話 「これからの住まいの在

片倉隆幸建築研究室  
片倉隆幸様

### 住まいをもっと豊かに心地よく(持続可能なパラダイムシフトへ)

東日本大震災から8ヶ月。震災後本当に大切なものは何か？情報量が多くなっても人間の復元力があるか？社会全体が打たれ強くなっているか？を考えます。奥行きのある社会、持続可能な社会を考えますと私たちの住まいも同様でありましょう。

エネルギーの問題になりますが、今後地球全体に自然エネルギーの使用をもっと進めていかななくてはと強く望みます。またストックをどのように活かすかも大切なことです。トランジション・タウンという言葉がありますが、ピークオイル、気候変動という危機を受け、市民の創意と工夫、地域毎の自立が必要だと感じています。

これからは一度作った住まいはクライアントのライフスタイルにあわせて改良することはあってもできるだけ壊さない。どこまで生きながらえていくか、それをちゃんと考えて設計していかななくてはならないと思うのです。

自邸を建てる時、設計監理を委託された建築家と共に、耐久消費財的ではない、文化的な発想で「終の住まい」を建てる気概をもっていたとていただくことである。それは長い目で見ればスクラップ・アンド・ビルドの日本の現状を変え、省資源であり、かつ生き延びる(sustainable)文明を築くことにつながるでしょう。いやもう時代は確実にリノベーション、コンバージョンの時代となりました。そして地球環境保護のためにも自然エネルギーを使用したエコな建築がテーマです。設計していくのには基本的な構造(環境への対応を含め)がタフでなくてはなりません。

### 「住まいと人・・・自然とのつながり」持続可能な社会を目指して

住まいの設計の中で建築が消費するエネルギーを最小化するしくみを創造していきたいのです。基本的なプラン日照、通風等といった生活面での基本的な自然環境との関わりを考慮する計画として、特に断熱性能に関してはきちんとした配慮が必要です。

①基礎:地中の安定した温度を利用しながら外周を基礎断熱。

②壁:木造の場合は室内側高性能グラスウール100mm。構造用合板下地+タイベックシート+硬質ウレタンフォーム30。外壁通気工法+胴ブチ18+木ズリ12+荒壁仕上げ20。コンクリートの場合 硬質ウレタンフォームの100。

③屋根:木造の場合 屋根面に硬質ウレタンフォーム、天井裏にグラスウール断熱材を200mm~300mmを基本コンクリートの場合は硬質ウレタンフォーム100mm。

構造がしっかりしていて、断熱材がきちんと施工されるといったような基本構造ができていないとどんな暖房を試みてもランニングコストのかからない住まいはできないと考えます。

住宅において使用されるエネルギーは、暖冷房、給湯、炊事、冷蔵庫、パソコン、テレビ等の家電製品。その大半を占めているのが、暖冷房と給湯のためのエネルギーです。この様に地球環境に対する意識が高まる中で、暖房や給湯システムは省エネで快適な方法が求められています。

#### ●ヒートポンプ式熱源機

ヒートポンプ式熱源機による床暖房、パネルヒーターを利用した暖房、エアコン。

#### ●太陽光発電

太陽光発電(Photovoltaic power generation)は、太陽電池を利用し、太陽光のエネルギーを直接的に電力に変換する発電方式である。ソーラー発電とも呼ばれる。再生可能エネルギーの一種であり、太陽エネルギー利用の一形態である。→ヒートポンプ式熱源

機も電気にて動作しますので太陽光発電にて発電した電気を使用しますので間接的に利用していると言えます。

### ●風力発電

風の力(風力)によって発電する方式である。通例、風車で発電機を回して発電するが、理論上は他の方法も考えられ、研究されている。風力エネルギーは、再生可能エネルギーのひとつである。地球環境の保全、エネルギーセキュリティの確保、経済成長の維持を同時に実現可能なエネルギー源として、世界各地で普及が進んでいる。

### ●コージェネレーション

コージェネレーションの場合はエンジンを回して電気を作り、エンジンから出る排ガスの熱を給湯に利用するシステムですので効率が高いですが、現在油やガスの価格が高くイニシャルとランニングコスト比較をしてみると投資改修が不可能ですので現在は使用される例は少ないです。

- ・エネファーム 都市ガス中の水素と空気中の酸素を反応させて発電し、その時発生する排熱を回収してお湯を作ったり暖房に使用します。
- ・エコウィル家庭用コージェネ ガスエンジンを回して電気を作り、エンジンの排熱を利用して湯をつくります。

電気を作るシステムが違います。両システムにつきましては普及がエコキュートに比べ遅れており、イニシャルコストの面で高上がり。

### ●地熱を利用したヒートポンプチラーユニットがありますが、まだイニシャルコストが高く一般的な普及までには到達しておりません。

大気の熱を利用し、エネルギー消費効率(COP)の高いヒートポンプをどの様に利用するかを実践しています。

## 自分が好きで設計している暖炉の燃焼について

ピークオイル時期を迎え電気がなくては何もできないという状態ではまずい。もっとローテクな火を見つめなおすことも大事。今の子供たちは火の扱いを知らない子が多い。火の教育、火育が必要。薪を燃やして火の周りに集まり絆を深めるとか、そうした仕組みを作ることが大事。

近年、地球の温暖化現象が大きな問題となっています。この温室効果ガスのひとつが、二酸化炭素です。このため、暖炉や薪ストーブは温室効果の原因になるのではないかと心配する人も多いようですが、実情は少し異なります。植物は成長の過程で二酸化炭素を取り込み、酸素を出します。いわば二酸化炭素はリサイクルガス。(こうして植物の成長の過程で取り込まれた二酸化炭素は、薪として燃焼される段階で空気中に放出されます。つまり、空気中の二酸化炭素を分解して炭素として蓄えていたものが燃えることによって、その炭素を二酸化炭素に戻しているということ)したがって、地球の内部に埋もれていた化石燃料を掘り出して燃やすのとは違い、燃料としての薪は、地球の二酸化炭素の総量を増やすことにはならないのです。なぜなら、薪を燃やして発生する二酸化炭素は、木が生長していた間に空気中から光合成によって取り込んだものだからだ。あくまでも環境に見合うしっかりした計画をして断熱材をきちんと施工、熱源は自然エネルギーを再利用して、できれば無暖房に近い建築をめざしていきたいと考えております。

住まいの設計において家族の中心を生み出す提案にダイニングやキッチンといった室内のデザインに力を入れておりますが、時には中心を創りだすために暖炉を作成して積極的に火を利用しております。

今までの設備を工夫しながらも設備に頼るのではなく地球環境全体の持続のために住まい全体を見つめ直して自然エネルギーを利用した住まいの提案とランニングコストのかか

らないタフな家、後世に住み繋いでいける住まいを目指していきたいと思います。

最後に住まいには3つの側面があります。ひとつには主観的なもの。つまり同じ広さの空間が誰にとっても同じ意味をもつとは限りません。第2に身体的なもの。快適さ、気持ちよさは人とモノとの関係の中で生まれる感覚である。第3に社会的なもの。一定の範囲の人々の間で共有されています。一方で住まいはインターネット等の情報への依存があり電子メディア上の空間が真の住まいとなるのかもしれませんが。

これから原点に立ちかえる意味で人を中心とした理念を語る必要があると思います。最初に住宅の性能の話をしたが、実はそうした偏りが住まいを貧弱にしているかもしれません。住まいをより豊かにするために持続可能なパラダイムシフトを皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

## ニコニコボックス

井上保子・牛山幸一・梅垣和彦・太田博久・大橋正明・小口雅弘・小口泰史・尾関秀雄・小野 仁・笠原祥一・笠原新太郎・北村正春・小松正二・佐藤有司・杉田隆夫・瀬戸雅三・高木昭好・中畑隆一・濱 俊弘・林広一郎・林 尚孝・林 裕彦・林 靖高・藤森睦美・宮坂 伸・宮坂宥洪・宮坂宥澄・矢島 進・矢島 實・山岡晴男・山岡正邦・山岸邦太郎・山崎典夫 片倉隆幸建築研究室主宰 片倉隆幸さんを大歓迎します。

## 出席報告

会員数47名、出席者34名、出席率77.27%、前々回訂正75.00%

2011-2012 年度 R I テーマ  
こころの中を見つめよう  
博愛を広げるために  
Reach Within to Embrace Humanity

